

藤原宮東南官衙地区の調査

—第197-5次

飛鳥藤原第197-5次調査は、橿原市高殿町地内における市道拡幅にともなう発掘調査である。調査地は高所寺池から北へと延びる市道と、常楽寺前の東西道路とが交差する三叉路の南西部で、藤原宮東南官衙地区にあたる。2016年には飛鳥藤原第188-7次調査として、道路拡幅予定地の大部分で発掘調査を実施しており、今回の発掘調査はそのすぐ北側に残る未調査地を対象とした。調査期間は2018年10月22日～同月25日で、調査面積は約7.0㎡である。

基本層序

調査地の基本層序は上位から1：現代盛土・表土（電柱根入れ掘方の埋土を含む）および2：現代攪乱坑、3：にぶい黄褐色砂質土（現代土層）、4：オリーブ褐色粘質土（床土）、5：灰黄褐色砂、6：オリーブ褐色細砂、7：オリーブ褐色砂礫である（図144）。遺構検出面は現地表面より0.6m下位（標高75.4m前後）にあたり、上記の層序では5の上面に相当する。5・6は粗砂および細砂からなる水流性の自然堆積物である。調査区の西壁沿いでは現地表面より1.0mまで掘り下げ、基盤となるオリーブ褐色砂礫を確認している。

検出遺構

調査範囲はきわめて狭小であるが、耕作溝のほか土坑2基、東西溝1条、小柱穴1基を検出した。SK11530は調査区北西隅および西壁で確認した。遺構検出面からの深さは約0.4mで、遺物は出土していない。SK11531は調査区中央部で検出した不整楕円形の土坑で、さらに西へと延びる。東西2.0m以上、南北約1.3m、遺構検出面からの深さは約0.3mである。埋土は黒褐色の砂質土で、細片化した土器片がごく少量出土したのみである。東西溝SD11532は調査区南端で検出した素掘溝で、SK11531と重複し、これより新しい。調査区で確認できたのは北肩のみで、南肩は調査区外である。遺物は出土していない。SK11530・11531間で検出した小柱穴SP11533は直径約0.4mの円形を呈し、遺構検出面からの深さは約0.3mである。

出土遺物

調査面積が小さいこともあり、出土遺物はごく少量であり、土器・陶磁器と瓦が整理箱でそれぞれ1箱ずつ出土したのみである。調査区中央で検出した土坑SK11531からは弥生土器片や土師器・須恵器小片のほか、ウマの歯などが出土したが、藤原宮期の土器片は含まれていない。

まとめ

今回の発掘調査では、床土の直下において土坑2基、東西溝1条、小柱穴1基を検出した。一昨年度の第188-7次調査の調査成果に照らしても基本層序および遺構検出面は同一であるが、調査範囲がきわめて狭小であるため、検出した遺構の規模や広がり等はあきらかにできなかった。（森川 実）

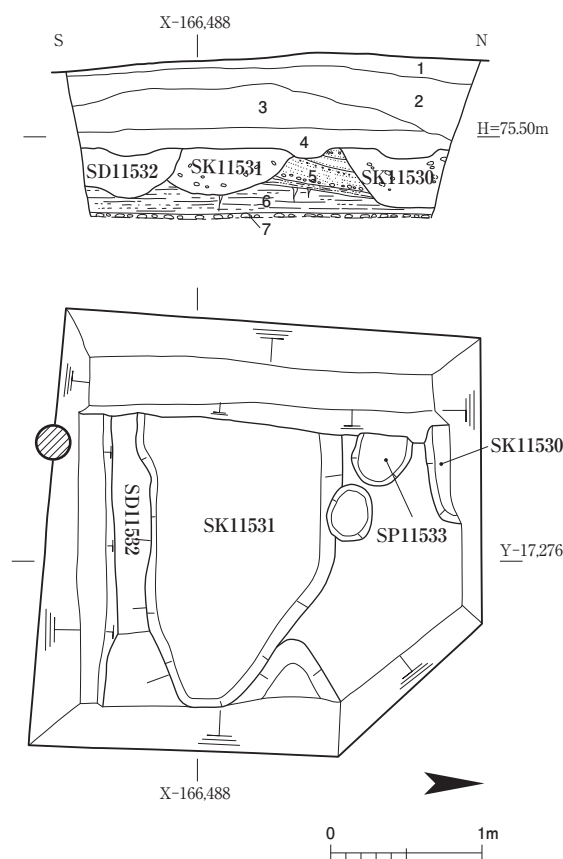


図144 第197-5次調査区遺構図および西壁土層図 1 : 50